REPORT 2011

Autism Society Japan

成人発達障害当事者団体の支援推進事業

報告書

社団法人 日本自閉症協会

REPORT
2011

Autism Society Japan

成人発達障害当事者団体の支援推進事業
報告書

はじめに

2011年3月11日の東日本大震災の深い悲しみと絶望と怒りの日々から、1年が経ちました。自閉症協会の仲間たちと子どもたちの苦しみは計り知れないと、すぐにでも駆けつけ手伝いたいと想いながら、現実の自分の子どもとの生活の中では身動きがとれず、何もできないことにジレンマを感じていた会員がたくさんいたことでしょう。突然の大きな災害で、見通しなく不安と不自由の中で生活することの困難さは想像を絶するだろうと、何もできない自分自身に焦りと苛立ちを感じ、今自分ができることに努める日々でした。

この経験を大切にし、今後の自閉症を取り巻く環境整備に活かしていく必要があります。

各地で災害時の支援体制を具体的に考えていくためにも、よりいっそうの啓発活動が重要です。

今年度成人発達障害当事者団体の支援推進事業では、全国8ヵ所で、当事者による講演会とシンポジウムを開催し、また、各地の協会や発達障害者支援センター、関係機関との情報交換を行い、ネットワークの構築の中で今後の課題を検討しました。

今回は、成人当事者の活動をどのようにサポートできるかというテーマで取り組みました。高機能事業が始まって12年、高機能自閉症やアスペルガー症候群の子どもたちを取り巻く環境はずいぶん変化してきました。早期発見され、同じ障害の人と療育などを通し、一緒に支援を受けながら成長し成人してきた当事者たちは、思春期以降当事者活動から卒業していく傾向も見られますが、就労や成人期以降の課題でつまずいたときに戻れる居場所は必要です。

しかし中途診断の当事者は「同じ障害の人に会いたい」という要求もあり、

ピアサポートを求める傾向があります。このようなニーズの違いがあるため、それぞれにあわせた支援や活動が必要であり、成人支援の仕組みはこれからも多くの課題があることがわかりました。各地域の自閉症協会が、このニーズにあわせて、どのような取り組みができるかを模索していますが、なかなか難しいのが現状です。

今後も、自閉症協会としてどのような啓発活動が必要かを考え、各地域で事業を進めていければと思います。

成人発達障害当事者団体の支援推進事業
企画委員会　委員長
社団法人日本自閉症協会　理事
江　口　寧　子

成人発達障害当事者団体の支援推進事業

報告書

目　次

CONTENTS

はじめに ―――――――――――――――― 2

第1章　事業の概要 ―――――――――――――――― 5

1-1 事業の必要性と目的 ………………………… 6

1-2 事業の種類 ………………………… 7

第2章　委託事業 ―――――――――――――――― 9

2-1 富山県自閉症協会 ………………………… 10

2-2 山口県自閉症協会 ………………………… 15

2-3 高知県自閉症協会 ………………………… 23

第3章　ネットワーク会議報告 ―――――――――――――――― 35

3-1 旭川 ………………………… 36

3-2 山形 ………………………… 38

3-3 茨城 ………………………… 40

3-4 富山 ………………………… 42

3-5 大阪 ………………………… 44

3-6 山口 ………………………… 46

3-7 高知 ………………………… 48

3-8 長崎 ………………………… 50

第4章　全体総括会議 ―――――――――――――――― 53

資料編 全国発達障害者支援センター一覧 ―――――――――――――――― 59

第１章
事業の概要

1-1　事業の必要性と目的

平成 17 年に「発達障害者支援法」が施行され、「特別支援教育」や「早期発見・早期療育」など発達障害児における支援体制が整備されている一方で、発達障害者支援センターへの相談が増加しています。相談者の中で成人の相談が占める割合は増加しており、その中でも知的障害を伴わない方さらに未診断や未受診（不明も含め）の方が大きな割合を占めています。大人になるまでに診断や支援を受ける機会に恵まれず、現在非常に大変な生活を送っている成人当事者が多いことが伺えます。

社団法人日本自閉症協会が高機能自閉症やアスペルガー症候群の本人と家族の活動支援を全国規模で実施する事業を始めてから今年度で 12 年目になります。昨年度全国 9 ヵ所で実施した「高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議」では、ほぼ全ての開催地において成人期をテーマに取り上げ、どの地域においても成人期の支援の必要性が顕著であり、成人当事者の自助グループやピア・サポートグループなど成人当事者団体への高いニーズも感じられました。

また、近隣の自閉症協会や発達障害者支援センター、活動団体などがネットワークを構築することで、高機能自閉症やアスペルガー症候群の生涯を通した途切れの無い支援を受けることができる仕組み作りの足がかりとなります。

そこで、本年度も独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、成人期の発達障害者を取り巻く支援の底上げを図ることを目的に、成人当事者の支援をテーマに事業を実施しました。

1-2　事業の種類

1-2-1　高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議

全国８ヵ所（旭川・山形・茨城・富山・大阪・山口・高知・長崎）で開催しました。午前中は開催地域周辺の都道府県・政令指定都市自閉症協会の担当者や発達障害者支援センターの職員と地域の支援についての情報交換会を行いました。午後は、成人当事者による講演と成人当事者や地域の支援者および企画委員でシンポジウムを行いました。

1-2-2　委託事業

３つの団体（富山県自閉症協会・山口県自閉症協会・高知県自閉症協会）で成人当事者を対象にしたグループ活動を委託しました。担当企画委員が出向し、活動の内容や運営についてコンサルテーションしました。

1-2-3　全体総括会議

委託事業の活動報告と成人当事者団体の活動報告を行いました。
成人当事者団体の運営スタッフからの活動報告の後、委託事業の受託団体や発達障害者支援センター職員なども交えて成人当事者の支援や、成人当事者団体の運営などに関する意見交換をしました。

第２章
委託事業

2-1　富山県自閉症協会

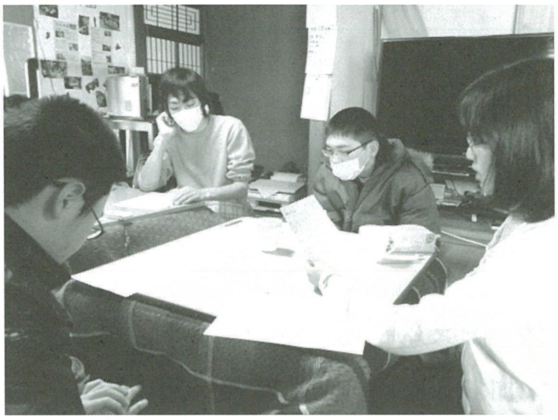
富山県自閉症協会では、成人当事者と思春期の当事者の交流活動を中心に行いました。

昨年、自発的に成人当事者が当事者活動のための会を立ち上げたことを知りました。思春期の当事者が、ちょっと先を行く先輩たちと交流する中で、悩みを相談したり一緒に楽しむことが将来できることを期待し、活動を始めました。

平成23年10月1日　親子キャンプのバーベキューの準備を手伝いました。
このときは、まだ成人の当事者会が立ち上がる前で、親子キャンプのお手伝いを兼ねてバーベキューの準備をしました。

みんなで協力して炭をおこしたり、野菜を切ったり大活躍でした。

平成24年2月4日　成人当事者のみなさんと一緒に、自分の取扱説明書をつくろう！ということで、成人の方たちと取説を作り、それを元に自己紹介をしました。

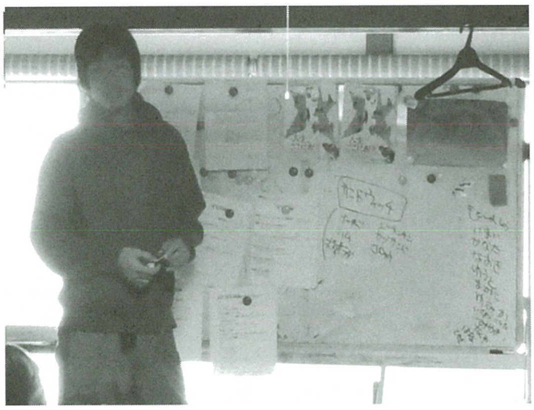


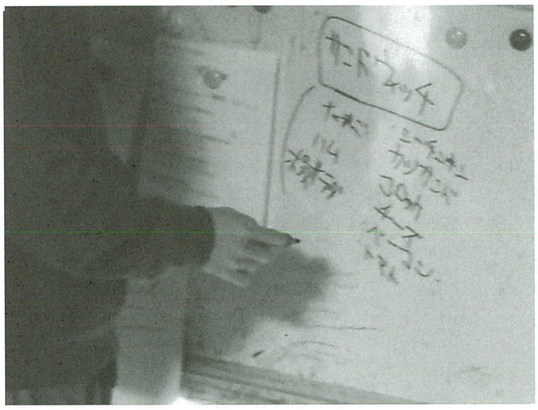
自己紹介が終わった後は、みんなで鍋を作りました。今回は思春期メンバーが成人期メンバーをおもてなし！ということで、思春期のメンバーが鍋の準備をしました。

時間はかかりましたが、みんなでおいしくいただくことができました。

平成24年2月11日　取扱説明書をつくろう２！ということで、前回仕事の途中で参加できなかった成人当事者の方たちも参加してくださり、前回より大勢の参加となりました。

今回は、取説を前回作らなかったメンバーが作成したのち、みんなでお昼に何を作って食べるか、相談するところから始めました。





その後、成人のメンバーと一緒に買い物に行き、調理開始！

今回のメニューは、サンドイッチとスイーツ！ということで準備は簡単♪

大体の材料を切り分けたら、自分の好きなものをチョイスして好きな具材をはさんでおいしくいただきました。

サンドイッチを作った後は、フルーツポンチとみんなで思い思いのケーキを作りました。

普段、成人の当事者の方とかかわる機会のない思春期の子ども達でしたが、取扱説明書を作り自己紹介をする中で、自分と同じ感覚を持っていることを知り、学校生活のことや先生や友達とのことを話す姿が見られるようになりました。

高校を卒業してからの進路の話、就労の話、結婚の話など、思春期の子ども達にとってはまだ先の将来になりますが、気軽に聞くことができる関係を作ることができたことが、今回の一番大きな収穫だったのではないかと感じています。

2-2　山口県自閉症協会

1．はじめに

平成１４年７月に設立。当時はLD、AD/HD、高機能自閉症などの発達障がいがマスコミに取り上げられ話題になりつつあった頃でした。これまでは知的な障がいがないために自閉症であることすら気づいてもらえなかった人や、障がいの程度が軽いと見なされてほとんど支援の手がさしのべられていなかった高機能の人たちへの支援が必要であるという気運が盛り上がり、全国各地に自閉症協会の高機能部ができていました。

そんな中　山口県にも高機能の親の会を作ろうという話が出て、同じように会の設立を切望した仲間が中心になってアスペの会ができました。設立に当たって自閉症協会本部から助成金を頂きました。そのため、アスペの会は、当初から自閉症協会山口県支部の高機能部を担う存在として認めてもらえるように、活動してきました。

NPO法人化に当たって山口県自閉症協会から、アスペの会に高機能部をお願いしたいというお話があり、話し合いを重ねて平成22年度より高機能部を担う形に移行しました。

・現在23家族が登録

・参加資格会員であれば登録可。（現在はIQの制限などはなし）

（平成23年度）

2．活動経過　～設立から現在まで～

設立当初は、山口大学の院生さんを中心に運営され、年１０回活動を行っていました。会員制ではなく自由参加で、保護者は専門家のお話を聞いたり、１０人程度のグループを作って座談会をしたりしました。高機能の会は県内では他になく、ここに来れば何か分かるかもしれない、何かできるかもしれないという藁をもすがる気持ちでした。

子ども達の活動は毎回ボランティアの院生さんが用意してくださり、調理をしたり、工作をしたり、手紙を書いたり、バスを借りて萩へ焼き物作りに行ったりしました。

２年目から会員制になり、専門家のお話を聞く以外に、啓発活動として年１～２回の

公開講演会やセミナーを行うようになりました。県内を４または５ブロックに分けて支部ごとに茶話会や、学習会を行いました。下関支部のように、教育委員会と協力して２ヶ月に１度定期的に「気になる子どもの学習会」を行ったところもあります。

同じく、２年目から始まった１泊２日の夏季キャンプは、充実したものがありました。日頃は、親同士がじっくり話す時間がなかなかとれませんが、一泊することでその時間ができ、同じ悩みを持つ仲間と共感し合いながら話ができて安心するとともに、地域に戻って頑張る活力になりました。１回目のキャンプの時に参加したお父さん達が親父の会を立ち上げ、その後もささやかな交流が続きました。子どもたちは、親から離れて、慣れない環境の中でボランティアさんと一緒に１泊し、達成感を得ることも出来ました。

平成１８年度から、運営主体が保護者になり、ボランティアの募集も保護者が行うようになりました。会員数も減り、いろいろと混乱もありましたが、この会が子ども達にとって必要だという思いで一生懸命続けてきました。親たちの結束力も高まりました。

平成１９年度から２年間は、コーディネーターを迎え、青年部会・児童部会と活動を分け、より当事者のニーズに近い活動を目指しましたが、青年部は部活動や進学のために継続して参加することが難しい会員が多く、長続きしませんでした。

現在は、主な参加者である小学生の親を中心に活動内容を考え、全員が何らかの役割を担って活動しています。親たちは定例会の時に専門家や先輩保護者の話を聞くほか、時々食事会を開いて日頃の悩みを相談し合ったり情報交換を行ったりしています。会員数が少ない分、こじんまりとした家族のような中身の濃い交流が得られています。

３．活動内容及び評価

（１）平成 23 年 12 月 11 日（日曜日）13 時から 15 時 30 分

当事者　10 名（うちボランティアとして参加２名）兄弟児　４名

保護者　16 名　ボランティアさん　16 名

場所：山口市吉敷　吉敷地域交流センター　大ホール

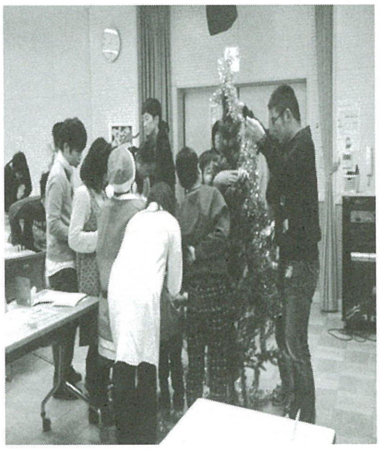
活動内容：クリスマス会　（出し物、工作・ケーキ作りなど）

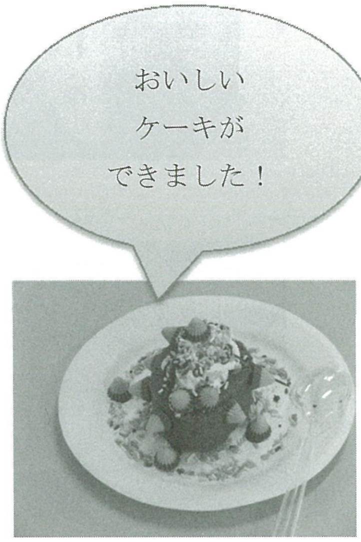
高校生以上の当事者に対してボランティアとして参加してもらえるように、声をかけ

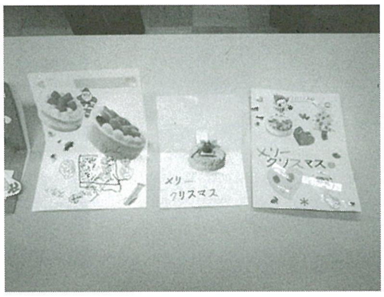
ました。さらに裾野を広げるためとして、旧会員さんにも声を掛けました。

残念ながら、今回の参加は難しかったです。

そんな中、当事者２名（高校３年生・大学４年生）がボランティアに参加しました。







（２）平成 24 年 2 月 12 日（日曜日）13 時から 15 時 30 分

当事者　９名（うちボランティアスタッフとして参加４名）外部講師２名

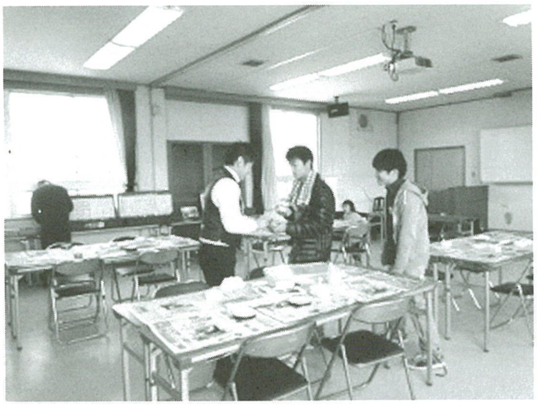
兄弟児　５名　　保護者　15 名　ボランティアさん　13 名

場所：山口市大内　大内地域交流センター　研修室

活動内容：化石のレプリカ作り

山口県立博物館　講師の方をお招きして、化石のお話を聞き、実際にアンモナイトや三葉虫などのレプリカ作りを行いました。初めての体験で、色付けなどに時間がかかる人もいました。

今回の活動を通して当事者にボランティアスタッフとして、受付・会計・接待をお願いしました。初めてのチャレンジなので、達成感を得られやすいように配慮しましたが、周りのサポートも良かったのか、何の戸惑いもなかったです。



４．参加ボランティア・保護者の感想

≪当事者　ボランティア・スタッフの感想≫

（１）　活動に参加してよかったこと

・人の役に立った気がして良かったです。

・お手伝いができ、達成感があって、自分に自信がついて良かったです。

・なにかあったら、また、お手伝いをしたいです。

・子どもたちを見守るのは、大変だったが周りの人に喜んで貰えたのが、嬉しかったです。

・多くの子どもと接することができるので、人と接することに慣れる良い経験になりました。親御さんにも大変お世話になりました。

（２）活動に参加して気になったこと

・なし

（３）ご意見・ご感想・今後の活動希望などがありましたら、ご自由にお書きください

・もっともっと役に立ちたいです。参加者のお母さんが、悩みを聞いて下さいました。

とても嬉しかったです。今度また会ったらお礼を言いたいです。

・以前、音楽を流して楽器を打ち鳴らす活動をしました。それがとても楽しかったので、またもう一回希望します。

・以前あった趣味や好きな物を見る会を時々して欲しいです。僕は趣味の戦艦模型やガンプラなどを同じ趣味の人に見て貰えると嬉しいです。アスペの会は楽しいです。いつもありがとうございます。

・今後も活動に参加していきたいと思います。

≪ボランティアの感想≫

（1）活動に参加してよかったこと

・子どもたちの楽しそうな姿が見ることができる。

・中学生・高校生の当事者は、普段の学校での様子を語ってくれるので、こちらも生の声が聞けるので勉強になる。

・化石のレプリカ作りは、興味をもって活動していた。

（2）活動に参加して気になったこと

・小学校・中学校・高校では、活動の内容を分けるべきかも知れないと、感じている。

（3）ご意見・ご感想・今後の活動希望などがありましたら、ご自由にお書きください

・中学生・高校生には、少しソーシャルスキルトレーニングのような内容を実施してもよいかと感じた。

・お互いに楽しい時間を過ごすことが出来た。

≪保護者の感想≫

（1）活動に参加してよかったこと

・当会では以前から（やってみたい）と、興味はあっても家ではなかなか出来ない活動が、のびのびと出来るので毎回楽しみにしているようです。実は人が好きでお世話をしたい気持ちがあるのですが、今までチャレンジさせて貰う機会がなかったのですが、今回の経験を得て一人前に扱って貰える気がして密かに彼は喜んでいます。

・今回ボランティアとして親子で参加しました。自分に自信がなくても、この会の中でなら、他のボランティアさんや保護者の方々から声をかけてもらいつつ自分も仕事ができるという安心感は何ごとにも得難いと思います。

・今までボランティアをして貰う側にいた子供たちが、お世話する側になって皆さんから「ありがとう」と言われ、「すごいね」と褒められ、とても嬉しいい経験が出来たようです。

・息子はこれまで何回か、ボランティア参加をしていたが、どんな関わりをしているのか見る機会がなかった。今回は親子一緒の活動だったので、様子が見られて良かった。

（２）活動に参加して気になったこと

・ボランティアとして参加したのだが、自分から積極的に担当の子どもと関わろうとしていなかった。自力でかなり活動できる子どもだったので、お節介をする必要はないのだが、側にもおらず、放っていて、自分は自分という態度に見えて気になった。

（３）ご意見・ご感想・今後の活動希望などがありましたら、ご自由にお書きください

・日ごろ見せない生き生きとした姿に、私もご褒美をいただいたようです。ありがとうございました。今後も継続して参加させていただき、先々ボランティアとして子どもさんとも関われるようになれば良いなと思います。

・小学５年生からアスペの会の活動に参加し、大学生のお兄さん、お姉さん、支援者の方々の暖かい携わりのお陰で大きな躓きもなくギャング世代や反抗期を越えてこられました。まだまだ頼りない少年ですが、お世話になるだけでなく趣味などを通してボランティアさんや小さなお子さんともかかわり、他人の趣味や気持ちに対しても共感していって欲しいと思います。高校生になった彼が先生や親以外の大人ともかかわり、少しずつでも他人の中で過ごすことや（ちょっと不思議な彼）の立ち位置を見つけていってほしいと思います。

・今後も継続的にボランティア役やスタッフ役を募り、少しでも子どもたちが達成感を得られるように支援していければ良いと思います。主役はあくまでも当事者や兄弟児なので。

・今まではボランティアされる側でしたが、今回ボランティアする側に初チャレンジしました。勿論、周りの配慮があったにせよ、改めて子どもの成長に気づかされました。

・チャンスがあれば今後も参加させたい。

５．今後の課題と展望

・中学生になると、部活動に入るため定例会に参加できない子どもが増えます。また、進学や就職のため県内外に散っていきます。青年の活動は、以前からの会員がそれぞれの夢に向かって歩き出せば、会に対するニーズも少なくなり、当事者の常時活動を継続して行うことが難しいです。しかし、今直ぐ必要がないとしても、将来何かで躓いたときやその人が必要と感じたときに、戻れる場所が必要だと考えます。

青年の居場所として「今、私たちの部会で出来ることは何か」と検討した結果、無理をして新しいことを始めるのではなく、今ある活動を続けていき、活動のスタッフとして参加してもらうのはどうかと考えました。人のために働いて感謝される体験は高機能の人たちにとって貴重だし、ボランティアなら青年の当事者が１名から参加できます。多少の不安があっても他のボランティアさんがサポートしてくれるので安心して活動できます。青年の参加者が増えて、彼らの中から自分たちだけで集まりたいという声が上がれば、そのときに青年部を始めたらよいのです。普段活動に参加できない当部会の卒業生たちのために、長期休みに青年期当事者向けの活動を持ってくるのも１つの方法でしょう。

・行政との連携や情報の共有について、お互いに話し合う必要があると考えます。中途診断の当事者と、早期発見組の当事者では求めるものが違います。中途診断の当事者は、「同じ障害の人に会いたい」という要求もあり、仲間を求める傾向がありますが、当部会の当事者は子どものうちから支援を受けているので、集まるのではなく、外に向かって出て行こうとしています。ニーズが違うので、当部会が中途診断の当事者に対応することは難しいです。そのあたりの対応は行政にお願い出来ればと考えます。親の会として何が出来るのか、行政の役割は何かを明確に出来るように、話し合いを進めていきたいと思います。

・会員のネットワークを活用して、活動に支援協力して貰える専門家を開拓します。親同士のピアカウンセリングも大切ですが、専門家のアドバイスもほしいので、自分たちがお世話になっている専門家に声を掛け、仲間として、講師として、アドバイザーとして、様々な形で会に関わってもらえるように働きかけます。

・役員について。当部会では会員数が少ないので1人1役をお願いしています。
近い将来県自閉症協会の役員（分会長）も回ってきますが、今でもいろいろな役を兼任している人が多いのに新しい仕事を入れる余力があるのか、現状では不安を感じます。

6．終わりに

今年度当会が「成人発達障がい当事者団体の支援推進事業」を引き受けることになり、当初、興味は持ちながらも、難しい問題で、自分たちにできるのかと不安に感じました。

しかし、企画委員の先生方よりご助言を頂き、何も難しいことに取り組むのではなく、今ある活動をうまく活用することで出来ることもあることを知りました。これからも沢山の方々のご協力を得て子どもも親も元気に過ごせる居場所作りにしていきたいと思います。

今回の委託事業により、当部会の今後を考えるきっかけを頂いたことを、本当に感謝しています。ありがとうございました。

山口県自閉症協会　高機能部

2-3　高知県自閉症協会

高機能・アスペルガー部会「クローバー」

1　はじめに

クローバーは、平成15年に結成し、子どもたちの居場所・仲間作り、保護者同士の交流を目的に、保護者が中心となって企画・運営してきました。近年は、ボウリング、クリスマス会、保護者食事会など、年に５回ほど集まっています。会員数は33家族（平成24年２月現在）で、子どもの年齢層は、小学生までが20名、中学・高校生が３名、18歳以上が10名です。現在、中学生以降の本人の参加がほとんどなく、小学生までの本人と家族のレクレーション行事と保護者食事会が主な活動となっています。

また、子ども同士の交流を目的に、ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）をベースにしたゲームを行うこともあります。

大学や専門学校などの学生ボランティアのサポートがある時は、家族や学校以外で、大人よりは自分に近い存在のお兄さん、お姉さんと関わりを持つ機会にもなっています。

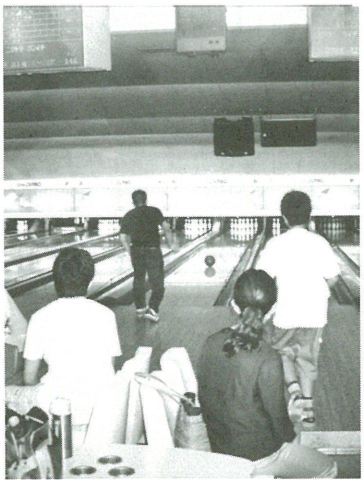
2　活動内容及び評価

（1）ボウリング大会

日時　　７月18日（月）海の日　午後２時～４時

場所　　ボウルジャンボ

参加者　本人12人（園児～成人）　きょうだい ２人
　　　　学生ボランティア５人　保護者５名



（活動の流れ）

24人を６グループにわけて、ガーターなしレーンで実施した。２ゲームしたらゲームコーナーなどで自由時間にし、全てのグループが終わったら参加賞を配り、みんなでおわりの挨拶をして解散した。

（実施にあたって工夫、注意したこと）

・全体で自己紹介できる場所がないので、ゲームの合間にグループごとに自己紹介シートを記入・回覧した。ボランティアには事前に記入のうえ、当日持参してもらった。

・ボランティアに案内段階で活動内容とサポート上の注意点を配布し、当日は、特別に配慮が必要なケースの打ち合わせを行った。また、配布した参加者名簿は、解散時に回収した。

・受付時に、ボウリングの仕方とスケジュールを配布し各保護者に確認してもらった。

・名札は、安全ピンが嫌な人がいるのでシール式にした。

・参加者の年齢層に幅（園児～成人）があり、またきょうだいを含めた親子参加や初参加もあったため、グループ分けは一律４人にはせず、組み合わせを考慮し３人～5人でわけた。

・毎年好評ではあるものの、ガーターなしレーンのため大人と子どもでは勝負にならないことがほとんどだったので、今年は子どもが勝てるようにとハンデを付けた。案内時に３つの加点を提示して参加申込時に申告してもらうようにし、加点できる対象は中学生までとした。（加点　①40 点　②50 点　③60 点）

・ボランティアがいないグループには役員保護者がサポートに入った。

（総評と反省点）

・自己申告の加点制により大負けがなくなり、本人、保護者から好評だった。
（50 点加点　３人　　60 点加点　８人　　加点なし　３人）

・園児のいるグループは進行が遅くなり、待ちくたびれる子どもがでた。今後は１グループの人数の見直し、園児がいる場合のメンバー構成など、各グループの終了時間がそろうような工夫が必要である。

・ボランティア（学生）は、ボランティア養成講座受講後、初めての実践の場になるので最初は緊張していたようだ。

参加者の感想

（保護者の感想）

１．よかったこと

・ボウリングは勝ち負けがあるので、大変ではないかと思っていましたが、進行状況も画面で確認できるし、勝ち負けにしても悔しさなど受け止めてくれる人がそばにいれば大丈夫なのだと分かったところが良かったです。
・みんながのびのびと楽しんでいて、「勝ち負けがある」とか「音がうるさくないか」とか心配していましたが、工夫しておけば、楽しんで過ごせるということがよくわかりました。子どもとも参加してみたいと思いました。
・ノーガーターで子ども達が楽しめたこと
・ガーターなしのおかげで、そこそこ点数が取れること。今回はハンデもつけてもらったので、気分的にも良かったと思います。
・初ボウリングでしたがとてもハマッて楽しんでいました。自分が終わった後も「〇〇君がんばって！」など応援もできて楽しかったです。
・皆で楽しくボウリングができました。ボラさんが付いてくれ安心してプレイできました。
・いろんな人と交流（仲良く）できたこと。
・家庭でボウリングに行かないので、参加できて子どもは楽しかったようです。
・毎年楽しみにしているので参加できてよかったです。運動不足なのでよかったです。
・小さな子から大人まで楽しめたのでとてもよかったです。来年もぜひ参加したいです。
・毎年恒例のボウリング大会はいつも楽しみにしています。これからもぜひ続けてもらいたい行事の一つです。
・ボランティアさんと話したり、年の違うお子さんと話したりでき、よかったと思います。
・学生のボランティアさんと楽しくボウリングができてとてもうれしそうでした。

2．気になったこと
・子どものグループばかりが遅くなったので、成人の方が待ちくたびれたのではないかな・・？と。
・プレイ終了後の待ち時間がバラバラなので、子どもが退屈してしまい、ゲームが気になって「ゲームする、するー」とやけが多くなってしまったこと。
・どうしたら上手に投げられるのか。

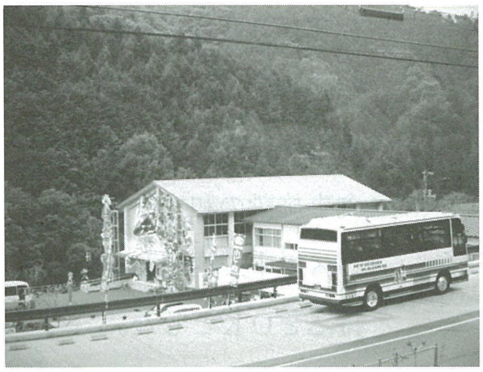
・同年代の人が少ないこと。
・ゲームの進む時間がゆっくりだったので、2ゲームは少し長かったみたいです。それでもボールを磨いて投げるのは楽しいようで参加してよかったです。

（ボランティアの感想）
・最後の方には、よく話してくれるし、笑ってくれたことがとてもうれしかったです。貴重な体験をさせていただいてありがとうございました。
・私も一緒になって楽しませていただきました。ボランティアの具体的な援助の仕方をもっと知りたいと思いました。

・最初はお互いに少し緊張していたけれど、一緒にゲームを楽しんでいるうちに仲良くなれたので良かったです。少しうろちょろしていたので、こういう人が多いところでは気をつけておかないと危険だなと思いました。最後の方は子どもたちも少し心を開いてくれたようで向こうから話しかけてくれたり、接してくれたのが嬉しかったです

・みんなで楽しくできました。お互いスペアやストライクが出たときは「やったー！」とかハイタッチをしたりなど、みんなで喜び合うことができました。本当に楽しかったです。「残念だったねー」とあまり言わないように心がけて、「おしかったねー」とか「次はできるよ」と前向きな言葉をかけるように心がけました。また一人ひとり性格は違っていて、対応の仕方が難しいと改めて感じました。最初はうまくコミュニケーションがとれるか心配でしたが、だんだん打ち解けてきて楽しくボウリングすることができました。もっと積極的に声をかけれたらよかったなと思いました。
・子供たちと一緒に楽しくしゃべりながらボウリングできたこと。気分が高くなった子が怪我をしてしまいそうなことをしていた時、どう止めたら良いのか分からなかったときがありました。「ボランティア」という意識を良い意味で忘れてしまうほどに色々と学んだり楽しませてもらいました。またこういう機会があったら参加させてもらいたいと思います。

（2）ホビー館見学



日時　11月6日（日）　8:30～16:00

場所　「海洋堂ホビー館四万十」

参加者 本人8人（園児～成人）

きょうだい2人　保護者9人

（活動の流れ）

今回、初めてバスを使って遠出する行事をした。ホビー館は2011年7月にオープンしたフィギュア展示施設で、改装した旧小学校体育館に、約一万点の作品が展示されている。場所は山の中にあり、ホビー館周辺は道が細く中型バスまでしか通れないという不便さだが、中型バスを貸しきり、時間に余裕をもったスケジュールで臨んだ。

[高知市内出発]

8時30分スタートで5箇所の乗車場所に寄り、9時30分に最終乗車場所からホビー館へ出発する。途中トイレ休憩を道の駅などで2回取る。

[ホビー館到着]

11時30分～昼食・休憩。食事施設の和室を貸しきる。

[全員でホビー館見学]

12時15分から1時間。各家族が自由に見学する。途中入退館が可能。和室で休憩：午後1時30分まで。

[ホビー館出発]

午後1時30分ホビー館を出発する。高知市内着後、各自乗車した場所で下車する。最終下車午後4時。

（実施にあたって工夫、注意したこと）

・事前に当日のタイムスケジュールを送り、保護者と本人の不安を軽減するようにした。

・片道約２時間半の乗車なので、トイレ休憩は 2 箇所とり、それ以外でも申告があれば停車した。
・乗車場所を５箇所に分け、参加者の乗車負担を軽減した。
・食事施設の和室を貸しきり、昼食以外でも自由に休憩できるようにした。
・バスの中で退屈しないよう、ＤＶＤでアニメを 2 本用意した。また、本やゲームの持込をＯＫとした。

（総評と反省点）
・時期的に、一般の入館者が少なくのびのびと過ごすことができた。食事施設は和室以外のスペースもほぼ貸しきり状態で気兼ねがなかった。
・子ども同士で関わる姿があり、一緒に見学したり、遊んだりと自然と友だち関係が作れている様子が見られた。
・当日は、口頭でのスケジュール説明にしたので、本人たちには活動の流れが分かりにくかった。
・行きでバスに酔った子どもが一人出た。帰りは、運転手横の補助席に座り酔わずに帰ることができた。酔いやすい人が複数いる時の座席の工夫が必要である。

参加者の感想

（保護者の感想）
１．よかったこと
・異年齢の子どもでも交流ができてよかった。休憩所を借りられたことで少し落ち着けてよかった。
・バスでゆっくり休憩しながら行けたのがよかった。
・他の友だちとの交流が持ててよかった。本人も行ったことのある場所なので、落ち着いて参加できた。
・親子でバスで遠出できたこと。気兼ねせず楽しめたこと。友達ができ、子どもも楽しんでいたこと。
・お友だちと遊べたり、楽しく過ごせた。お母さん達とお話できる時間があってよかった。海洋堂は自分も子どももおもしろく楽しめた。
・たくさんの子供同士で、バスで行動して過ごすということをしたがっていたので、

とても嬉しかったようでよかった。

・ボランティアがいなくてもみんなで子どもを見守っていけたので、このくらいの人数がちょうどよかった。

・障害を持つ子供同士、周りを気にせず楽しんでいくことができました。今回は女の子が少なかったので、次回は女の子がもう少し来るといいですね。

・いつも私と二人での行動が多いので、今回のようにいろいろ参加していきたいと思いました。

・行く前は本人が緊張していて、何度もトイレに行っていたが、来ると楽しんで活動できてよかったです。

・親子共々、のびのびと過ごせました。バスの間も、ＤＶＤがおもしろく、楽しく過ごせました。

・子どもは子ども同士交流して楽しかったようで、よい体験になりよかったです。展示も、子どもも大人も楽しめてよかったです。よい気分転換になりました。

２．気になったこと

・バス酔いをしていた子どもがかわいそうでした。

・ホビー館の見学はとても楽しく過ごせましたが、もう少し走ったりできる遊びのスペースがあればいいと思いました。

・事前に、行く場所の写真があれば子どもの事前の心構えができていたかな？とも思います。

（3）クリスマス会

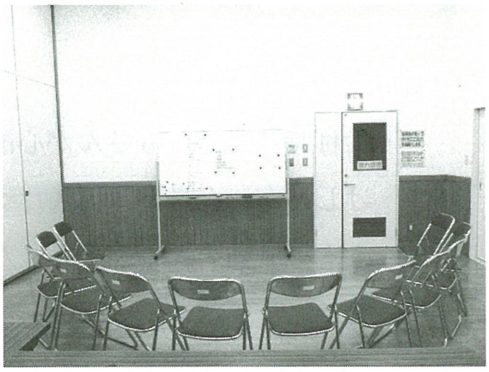
日時　　12月11日（日）　午後1時30分～17時

場所　　コープかもべ店

参加者　本人９人（園児～小６）きょうだい３人

学生ボランティア　４人

保護者10人（進行１人含む）



（活動の流れ）

1．はじめの会　スケジュール説明

2．ゲームタイム

「おちた　おちた」（聞く力）

「自己紹介」　　　（自己表現）

「変身ゲーム」　　（見る力）

3．おやつタイム　「サンドイッチづくり 」

4．出し物タイム

5．ビンゴでゲット　クリスマスプレゼント

6．終わりの会　あいさつ

（実施にあたって工夫、注意したこと）

・ゲーム会場、おやつ会場、控え室（和室）と 3 部屋用意し、活動にメリハリをつけた。

・ボランティアは 4 人なので、ゲームタイムでは、ボランティア 1 人に 3 人の子どもをサポートしてもらい、おやつタイムでは、4 テーブルにわけて、各テーブルに 1 人ついてもらった。

・自己紹介の前に「おちたおちた」ゲームをして子ども達の緊張をほぐすようにした

・出し物タイムは、保護者全員に見学してもらった。

・ビンゴは全員にプレゼントを用意した。全員がビンゴするには時間がかかるので途中着席が難しくなった子どもは控え室（和室）で自由時間にした。

・子ども達を待たせずに、保護者が準備・片付けができるように当日のスケジュールを組んだ。①ゲームタイムの間に保護者はおやつ準備。②ビンゴの間に保護者は片付け→お茶タイムを取りながらアンケート記入。

（総評と反省点）

・受付時に、子どもさんが心配な場合は子どもについてもらって良いと保護者に声かけしたが、全員が準備・片づけに回ってくれスムーズに作業ができた。一方で、子どもの活動の様子が見られなくて残念だったという声もあったので今後の課題とする。

・ゲームタイムが予定より長引いたため、保護者に持ち時間ができてしまった。時間通りにできるよう、ゲーム進行の工夫が必要であった。

・出し物タイムは、他の子どもがやるのを見て自分もやりたくなる子ども達の飛び入り参加もあり積極的な姿勢が見られた。クイズ、演奏、4コマ漫画紹介、変顔披露と、とても盛り上がった。

参加者の感想

（保護者の感想）

1．よかったこと

・お母さん達といろいろとお話ができた。子どもも発表ができ、自信が持てたように感じる。緊張する場面が少なく、親子共々楽しめた。畳のお部屋があったのもよかった。

・子どもがのびのびと出し物をしたり、ゲームをしたりして、楽しめていたようで良かったです。

・親子で周りを気にすることなく楽しく過ごせた。子どもがとても楽しそうだった。サンドイッチも楽しく作れた。

・親子共に、おやつを作ったり、子どもの楽しく参加のできる内容でたのしい一日でした。

・とても楽しめた。また参加したい。イベントの企画も思いついたら連絡します。

・子どもが楽しめたので、親も嬉しかったです。親は親同士、昔からの友だちのようにいろいろなことを話ができて、本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。

・はじめてもクローバーの会への出席で緊張していたのですが、みなさん優しく楽しかったです。子どもも楽しんでいました。

2．気になったこと

・事前に準備をしてくださっているので、負担もなく楽しめたが、準備が大変なのではないかと思う。子供たちのゲームがどんなものか知りたい。

・ボランティアさんがいてくれたけれど、うちの子にはあまりついていてくれていなかったような・・？ボランティアさんがもっと積極的に子どもと関わってくれたらよかったなと思いました。

・準備に忙しくてもう少し親子で参加できたらいいと思います。子供たちが遊んでいる姿を見たかったです。

（ボランティアの感想）

・最初は、少しどきどきしていたのですが、子どもたちの元気な様子を見て一緒に楽しめました。かわいい笑顔にも癒されました。みんなで一緒にゲームをするにあたって、やはり時間通りに進めるのは難しいけど、サポートしあいながら楽しめるんだなと思いました。ちゃんと子どもたちも触れ合いながらサポートできるかなと不安だったのですが、ゲームをして、サンドイッチを食べてすごく楽しめました。

・出し物のコーナーで、出し物をしたい人の希望を最初聞いた時、手を挙げていなかった子が、コーナーが始まったときに「やりたい」と手を挙げていたことが印象的でした。会の間に緊張が解けていったのかと思いました。ビンゴゲームのプレゼントを全員にあげていたので、前もって好きそうなものを準備しておいて渡すのもいいのではないかと思いました。

・ゲームで子どもたちと打ち解けたと思うととても良かった！！また、ご飯など全てお母さん方が準備してくれたので、とてもスムーズだったと思う。人数的な規模もいい具合だなと思う。自分がビンゴした後や、変身ゲームで変身し終わった後など、他の子ども達が暇になってあちこち行ってしまったのは、仕方がないかなあ・・？！色々な個性をもった子供たちでしたが、みんなとても元気があってかわいくて、癒されました。その裏にはご家族の方の日頃の支援があるからかなあと思いました。

・サンドイッチを自分でつくるのが、みんな思い思いにできていて、とても楽しそうでした。変身ゲームでは、順番が途中分かりにくくなって、不安がっている子がいたのが気になりました。出し物では、みんな積極的に次々と発表できて、雰囲気も良かったと思います。みんな楽しそうだったので、私も楽しかったです！

3　今後の課題と展望

高知県は県域が広く東西に延びているが、高知県自閉症協会会員の 8 割が高知市とその周辺に住んでいる。各部会の活動は主に高知市内で実施され、東部、西部での支部活動ができていないのが現状である。そのため、当協会全体として地域格差を解消するための取り組みが課題である。

また、クローバーでは、中学生以降の本人活動のニーズを見極めたうえで、その実施・継続のためのサポート体制をつくることが課題となっている。

（1）小学生までの本人活動は、親子行事の形でこれまで通り継続する。

（2）中学生以降の本人活動については、まずは、茶話会を実施するなどして本人や家族の現状とニーズを把握していきたい。

（3）また、思春期以降の本人活動を企画運営するためには、専門家や医療・福祉関係機関との連携が不可欠であり、本人活動を支える体制を作っていきたい。

（4）安定したボランティア確保のためには、大学や専門学校と連携する必要がある。

（5）生涯を通じた一貫した支援の実現のために、行政や関係機関と連携をとり、情報の収集・共有化を図っていきたい。

（6）県内外の親の会と横のつながりを持ち、保護者同士の交流と活動の活性化を図れるようにしたい。

4　おわりに

「子どもたちが、のびのび過ごせる時間を作りたい」「親が気兼ねせずに過ごせる場を作りたい」と思い活動しています。定例会が親子のリフレッシュの機会となり、また、時々でも定期的に会う仲間がいることで『一人ではない』と思ってもらえたらと思っています。

一方、年齢が上がっていく中で、保護者や本人だけでは太刀打ちできない様々な課題に直面します。気分転換では解決しない現実があります。

特に、就労や安定した生活の確立は、本人と家族の努力だけでは困難です。生涯を通じて本人や家族への支援が途切れることがないよう、私たち保護者と関係機関、専門家が協同し続けていけるように、保護者としてできる範囲で、また保護者同士が協力し合

える体制で、持続可能な活動をしていきたいと思います。

第３章

ネットワーク会議報告

3-1
高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議【旭川】

日時：2011年１月28日（土）
場所：大雪クリスタルホール　大会議室
担当企画員：柏木 理江・尾崎 ミオ
講演：演題『発達障害の理解と支援を求めて～成人した当事者の視点から』
　　　講師 片岡 聡　氏（NPO法人東京都自閉症協会スタッフ）
シンポジスト：片岡 聡　氏
　　　　　　　萩原 拓　氏（北海道教育大学旭川校　特別支援教育分野）
　　　　　　　成人当事者
　　　　　　　柏木 理江・尾崎 ミオ
参加者数：127名

【開催地担当者感想】

去る１月28日（土）に旭川市大雪クリスタルホールで、高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議in旭川を開催しました。今回のテーマは「成人当事者の支援を考える」ということで、ＮＰＯ法人東京都自閉症協会スタッフ片岡 聡 氏をお招きし、ＡＳＤ当事者として歩んで来られたこれまでの体験を中心に講話をいただきました。また、地元青年Ｓくんにも参加していただき、職場での様子や生活についてお話をいただきました。私たちがこれまでＡＳＤに必要な支援だと思い込み行っていたことが、必ずしも当事者にとってはフィットした内容になっていないことや、余計なお世話であったり、彼らを追い詰めてしまっていたことなど、多くのことに気づかされた貴重な機会となりました。開催にあたり、企画委員である東京都発達障害者支援センター 柏木 理江 氏、ＮＰＯ法人東京都自閉症協会理事 尾崎 ミオ 氏、北海道教育大学旭川校准教授 萩原 拓 氏から貴重な助言もいただき、ＡＳＤ理解の本質と支援のあり方について、約１００名の参加者とともに真剣に考えることができました。

【参加者アンケート】

○ご意見・ご感想などを自由にお書きください。

・当事者達の生の声が何よりも勉強になりました。ありがとうございました。

・教育歴 18 年になります。以前 ASD の生徒の担任をしておりました。講演・お話しを聞いて、障害特性も大事だが、それは本人の一部に過ぎないという言葉にとても同感できました。障がいの前に一人の人間としての教育が大切と言う事を知りました。自分の実践の良いところ、だめだった所が、具体的に良く分かりました。本当に勉強になりました。自分のやりたいことを気がねなくできる事、それが自立なのかなぁと思いました。

・青年・成人 HF・PDD について知らないこともたくさんあるので、今日のような機会は大変勉強になりました。今後更に、専門性を磨く努力をしていきたいと思います。

・アスペルガー症候群の診断を受けた片岡さんの見え方、感じ方というものをよりリアルに知ることができました。特に投薬についてや統合失調症との誤診について、認識することができました。

・現在、中学生のケースを支援していますが、課題が山積みです。今回のお話を参考に、支援していきたいと思います。すこし明るい見通しが立ち、良かったです。ありがとうございます。

・現在高校でコーディネーターをやってます。やはり本人と親御さんの思いの相違などで、進路選択には苦慮していますが、今日の皆さんのお話から、やはり、本人の意向の尊重を中心にしながらの支援が必要だと実感しました。本日はありがとうございました。

○今後のネットワーク会議でどのようなことをしてほしいですか。

・具体的に本人、親の集まりを企画して欲しい。

・当事者、教授、関係者など様々な立場の方から意見を交流する場を設定して欲しいです。（今回のように）

・当事者の実際を知る、当事者自身から話を聞く機会を増やしてほしい。

3-2
高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議【山形】

日時：2011 年 11 月 26 日（土）
場所：山形ビッグウィング　大会議室
担当企画員：江口　寧子・新保　文彦
講演：『発達障害の悩み～当事者・支援者・家族として～』
　　講師 村上 由美　氏（言語聴覚士・ボイスマネージ）
シンポジスト：村上 由美　氏
　　村上 真雄　氏
　　紺野 淳一　氏（山形県自閉症協会・山形県社会福祉事業団）
　　江口 寧子・新保 文彦
参加者数：106 名

【開催地担当者感想】

山形開催に感謝

山形県自閉症協会
会長　花輪敏男

ネットワーク会議を山形で開催することができ、自閉症そのものの理解推進に大きく役立ったと、心から感謝しているところである。最近、山形でも成人の発達障害（特にアスペルガー症候群）のことが問題になってきてはいるが、まだまだ関心は低いと言わざるを得ない現状にある。特別支援教育がスタートしたばかりという山形の事情があり、長いスパンで考えていかねばならないのに、それぞれが目前のニーズにしか眼が向いていないということであろうと考えている。このたびのネットワーク会議の開催をきっかけに、県自閉症協会としても、課題と展望を明らかにし、今後の取り組みに活かしたいと考えている。

【参加者アンケート】

○ご意見・ご感想などを自由にお書きください。

・知的障害を伴う自閉症者の支援に携わっていますが、彼らの思いを聞くことはできません。今回、当事者の方の生の声を聞く事ができ、現在支援している方たちの抱えている問題や思いに対して、少しでも理解する足がかりになることができたかな、と思っています。有意義でした。

・当事者の生の声を聞く事が出来て、とてもためになりました。このような機会はめったにないので、大変有意義でした。ありがとうございました。

・今まで、支援者、専門的立場の方からの講演しか聞く機会がなかったので、新鮮な気持ちで講演・シンポジウムを聞かせて頂きました。当事者の生きづらさをもっと感じながら、気持ちによりそって支援していきたいと思いました。

・村上先生のご講演は、成人だけでなく、むしろ小、中学生の子を持つ親にとって大変参考になりました。もっと多くの親御さんに聴かせてあげたい内容でした。シンポジウムも大変的確で、あっという間でした。是非、終日のイベントとして計画して頂ければと思います。ありがとうございました。

・高校生の進路を考えると面接指導や将来の進路目標達成にどのように支援をしていいかわからない。もう少し、支援の仕方や、生徒の理解などを学べる機会がほしいと思った。又、企業での支援についても連携が取れる方法も必要ではないか。初めての参加で、少ししか理解できていないかと思います。ありがとうございました。

○今後のネットワーク会議でどのようなことをしてほしいですか。

・高機能自閉症の方が実際に就労している例をお聞きしたい。(そこに至る過程((教育、医療、福祉等の支援))も含めて)

・支援されるだけでなく、自分で動いている成人の方の話などが今後も聞けるとうれしいです。

・具体的支援事例

・企業側での対応・就職支援について・支援をするにあたってスキルの身に付け方

3-3
高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議【茨城】

日時：2012 年 1 月 21 日（土）
場所：茨城県県南生涯学習センター　多目的ホール
担当企画員：新保　文彦・柏木　理江
講演：演題『発達障害者の過去・現在・未来』
　　　講師　ウイ・クアン・ロン　氏（牛久愛和総合病院総合検診センター勤務医）
シンポジスト：ウイ・クアン・ロン　氏
　　　　　　　田中　正枝　氏（株式会社 Kaien）
　　　　　　　冠地　情　　氏（東京都成人発達障害当事者会「イイトコサガシ」）
　　　　　　　田畑　邦雄　氏（茨城 LD 等発達障害親の会　星の子　代表）
　　　　　　　高山　孝信　氏（茨城県自閉症協会　会長）
　　　　　　　柏木　理江
参加者数：194 名

【開催地担当者感想】

ネットワーク会議【茨城】まとめ

高山　孝信

ウイ・クアン・ロン 氏の基調講演では当事者の立場から、障害の困難な点を分析・認知した内容、上手く対処して生きていくための３点、「いい人になる」「良い趣味を持つ」「人と出会う」を努力していると報告いただいた。

シンポジウムでは、まず、(株)KAIEN の田中正枝氏より、KAIEN に集まる方々を中心としたネットコミュニティについて紹介いただいた。次に、茨城 LD 等発達障害親の会 星の子 代表 田畑邦雄氏から成人当事者への支援の課題と今後の方向性について述べていただいた。最後に東京都成人発達障害当事者会「イイトコサガシ」の冠地 情氏より、コミュニケーション・ワークショップを中心とした交流事業について紹介いただいた。

【参加者アンケート】

○ご意見・ご感想などを自由にお書きください。

・"当事者の視点から"の講義がとても興味深かったです。これまでの講演会では、支援者の視点が大半で当事者の声が聞けずにいましたが、今回は当事者の視点から立つとこうなのか・・・と勉強になりました。もっと講義が聞きたかったなと思いました。

・討論の場で特に各人の経験を踏まえた率直な意見があり、大変考えさせられたし、参考になりました。是非こういう活動に今後も参加したいと思いました。

・東京で行われている事柄を伝えてくれることも大切ですが、茨木というところ、地域性や県民柄などを配慮したプログラムの構成を期待します。会議というものでなく、"紹介"で終了してしまっていたように思えて少し残念です。

・支援者の１人として、当事者の声を聞きたくて改めて参加しました。様々な意見があり、参加して良かった。

○今後のネットワーク会議でどのようなことをしてほしいですか。

・過去の嫌な経験を思い出し、自傷・他傷のパニックを起こす方に対する対応（予防・事後）を教えて欲しい。

・成人アスペと診断された人の就職状況・つづけることのノウハウを知りたい。ありがとうございました。ウイ先生の話が良かったです。

・成人当事者支援および活動に関しての情報をもっと掘り下げて欲しいです。

・発達障害者の育児支援について。

・当事者グループ、親の会の活動で実際にどのようなことが行われているのか知る機会があるといいです。

○改善点があればお書きください。

・初めての参加です。開催時間が３時間と短く、高機能・アスペ・範囲の幅が広いにもかかわらず極めて限定的（健常者と区別がつきにくい）な所で、もう少し深く掘り下げたものを期待します。

3-4
高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議【富山】

日時：2011年12月18日（日）
場所：サンシップとやま（富山県総合福祉会館）研修室603・604
担当企画員：江口寧子・新保文彦
演題：『成人当事者の支援を考える〜当事者の視点から〜』
　　講師　広野 ゆい　氏（NPO法人発達障害をもつ大人の会（DDAC）代表）
演題：『発達障がいのある大学生支援〜私らしく生きることを支援する〜』
講師　西村 優紀美　氏
　　（富山大学学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室 発達障害支援部門チーフ 特別支援教育士スーパーバイザー）
シンポジスト：広野 ゆ　い 氏
　　西村 優紀美 氏
　　加藤 愛理子 氏（さくらカフェ・富山YMCAフリースクール講師・特別支援教育士）
　　下田 亜由美 氏（富山県発達障害者支援センターありそ　主任・発達支援担当）
　　江口寧子・新保文彦
参加者数：59名

【開催地担当者感想】

去る12月18日、サンシップとやま(富山県総合福祉会館)にて高機能ネットワーク会議が行われました。午前中に行われた関係団体との情報交換会は和やかな雰囲気のもと、活発な議論が展開され、有意義な情報交換の場となりました。

午後からの講演会は、ほぼ満席となり、西村優紀美氏には富山大学における先端的な発達障がい学生支援システムを紹介していただきました。また、成人当事者である広野ゆい氏には、感覚や理解の仕方において、健常者と何が異なるのか、詳しく話していただき、誤解を受けやすいこの障害への理解を深める一助になったと思います。当事者支援活動についても触れられ、当事者間のピアカウンセリングの重要性を感じました。続いて行われたシンポジウムでは富山県内で当事者支援を行う団体の事例紹介があり、支

援の広がりを感じる事ができるとともに、日本自閉症協会との強い繋がりを感じることでき、たいへん有意義な１日となりました。

【参加者アンケート】

○ご意見・ご感想などを自由にお書きください。

・子供が地域の小学校の支援級に在籍してます。伸々、育ててやりたいと思い、支援級にしましたが、いざ定期発達の子供達の中（カリキュラムの中）にいると、その子たちと同じ道筋に進まなければ、生きていけないという強迫観念にかられ、ついハードルの高い事を要求し、子供に辛い思いをさせてしまっている事に気付きました。さくらカフェ、フリースクールがあるじゃないか！！一般的と言われる道を進まなくても、あの子らしく生きていくことができるんだと改めて感じました。親として、とても嬉しく、あの子の、ありのままが愛おしく思い直すことができました。ありがとうございました。
・いろいろな機関が情報交換して、つながる事はとても大切だと思います。初めての参加でしたが、とても勉強になりました。ありがとうございました。
・当事者の方も数名にして、同数ぐらいにして会議を開いていってほしいです。
・何年か後に子供（当事者）も参加させたいと思いました。本人、保護者、関係者の方達全てに有意義な場と思います。運営お疲れ様でした。

○今後のネットワーク会議でどのようなことをしてほしいですか。

・成人当事者の現在の生活の状況？について。年金や手帳の有無（これを利用する方法)。親なきの住居は、どこに置くのがよいか。
・専門家はもちろん、当事者のお話をもって聞きたいです。大変参考になりました。
・県内外で活動している団体の中心となってる方から活動内容や支援の事を聞きたい。（現場の声）
・自閉症協会と支援センターとの連携についての意見交換。

3-5
高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議【大阪】

日時：2012年２月12日（日）
場所：大阪産業創造館　会議室Ｅ
担当企画員：江口寧子・岡田稔久・新保文彦
講演：『成人当事者の支援を考える～当事者の視点から～』
　　講師　広野 ゆい　氏（NPO法人発達障害をもつ大人の会（DDAC）代表）
シンポジスト：広野 ゆい　氏
　　横山 弘和　氏
　　市村 健一　氏（大阪市発達障害者支援センター「エルムおおさか」所長）
　　江口 寧子・岡田 稔久
参加者数：97名

【開催地担当者感想】

高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議を終えての全体的な感想

今回のネットワーク会議は、近畿内の関係団体が情報を共有できるよいきっかけになったと思います。基調講演では当事者から、障害に対する受け止めかたをお話しいただき、親としての役割も考えさせられました。成人になってから診断がおりた場合親自身が障害と向き合うことの難しさも感じました。今後、成人期の実状を知り、何が必要か、子供を抱えた家族とともに連携を図りながら、啓発活動を行っていく必要性を感じました。

これからも、発達障害者支援センターや、専門家と連携し、関係団体がお互いに協力しあい、共生社会へ向かって歩みを進めていきたいと思いました。

【参加者アンケート】

○ご意見・ご感想などを自由にお書きください。

・広野さんのスライド、説明と、話すごく分かりやすく、すごく私が悩んでたり苦しんでいることが、やはり病気、発達障害だったと理解できたのでよかったです。
・実際の具体的なお話が聞けてとても参考になりました。自助グループの必要性やよさがわかったように感じます。どうも有難うございました。
・子供、二人が発達障害をもっており、まさに今、支援することの難しさを実感している中で、当事者の話を聞け、すごく子供たちの苦しみがわかったように思います。しないじゃなくできないことを理解し、サポートすることを教えられました。ありがとうございました。
・当事者である広野さんの言葉には迫力と説得力があり、よく当事者の見方、想いが理解できました。この事業を企画してくれた皆様、ありがとうございました。
・当事者の声がきけてとても良い勉強になりました。子供の支援に役立てたいと思います。
・大変よかった。シンポジウムのメンバーが多彩であり、それぞれの立場からの話がよかった。
・就労に直面している子供にもう少し、確かな明確な答えを欲しかった。子供の生活がかかっている為

○今後のネットワーク会議でどのようなことをしてほしいですか。

・就職の現状を詳しく聞きたい。
・地域でどういう資源があり、どのように活用するのか？ということを知りたいです。大阪府はあちこちで色々ありすぎて分からない/把握しきれないところが多い
・職場での支援について（障害者雇用枠）
・青年期のこれからの自立した生活。色々なパターン。障害者年金・生活保護。
・各種支援団体の横のつながりを作る場をつくって欲しい。

3-6
高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議【山口】

日時：2012年1月22日（日）
場所：ルルサス防府（防府市地域協働支援センター）　多目的ホール
担当企画員：柏木理江・尾崎ミオ
講演：『発達障害の理解と支援を求めて～成人した当事者の視点から』
　　講師　片岡 聡　氏（NPO法人東京都自閉症協会スタッフ）
シンポジスト：片岡 聡　氏
　　花咲 蜜　氏（アスペルガー症候群・高機能自閉症の女性の会　カモミール　代表）
　　金子 味佐子　氏・桝井 はるみ　氏（山口県自閉症協会）
　　柏木理江・尾崎ミオ
参加者数：98名

【開催地担当者感想】
高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議を終えて

人は自由への憧憬をもっている。

バリアフリーという言葉があるが、身体的不自由は、疑似体験や不自由さの想像が可能であるが、自閉症や発達障害に関する不自由さは、疑似体験や想像が極めて困難である。

自閉症に係る不自由さ、社会生活における生きにくさを解消するには、当事者の不自由さの本質を理解することが第一歩である。

今回のテーマ「成人当事者の支援を考える」では、情報交換会や会議を通じて、当事者自らの言葉で、不自由さをどう感じ、どのような支援が効果的か等を非当事者にわかりやすく伝えていただく場となった。

当事者一人ひとりの個性を考慮すると、今後、今回の様に多くの事例に接することで、

私たちが想像力を逞しくして、当事者の生きにくさの解消につなげていくことに役だてたいと感じた。

【参加者アンケート】

○ご意見・ご感想などを自由にお書きください。

・研修や勉強会で知識や実践例を学ぶことはできるが、当事者や関係者の生の声は聞きにくいので、大変ためになる会だった。
・成人当事者、他県の方々のご意見を伺い大変参考になりました。次の世代の子どもたち、保護者の方々のため、様々な機関がつながりをもって活動することが大切だと思いました。貴会の益々のご発展をお祈りいたします。
・当事者の方の貴重なエピソード、活動についてのお話しが聞けてとても有意義な内容でした。ありがとうございました。山口県内の情報（活動の報告）もよかったです。情報の発信やネットワークづくりの大切さを感じました。
・当事者の方の「早期に診断を受けていなかったので、色々な社会経験ができて良かった」という話は、個人的には衝撃的でした。

○今後のネットワーク会議でどのようなことをしてほしいですか。

・主に幼児～学童期の方達と関わっているので、成人期の方達の話を聞くことができてとても有意義な時間でした。近年、横断的なつながりは充実してきているように感じるのですが、縦断的なつながり（１人の子どもさんを乳児～成人期までどうサポートしていくか）はまだ弱いように思います。こういった縦の関係作りについて情報があれば教えて頂きたいです。
・当事者の話をききたい。どういう進路をたどっているのか。そして、どういう工夫をしているのか・・・etc.
・自分の子どもはカナータイプの自閉症ですが、同じ自閉症スペクトラムの当事者の方のお話をきけて、自分の子どもが言えない気持ちをよく理解することができたように思います。
・本人にとって有意義・有効な支援等の具体的なケースを多く紹介して欲しい。
・できるだけ、当事者の人の話が聞けたら嬉しいです。どういうふうに感じたり、考えたりしているのかが、もっと知りたいです。

3-7
高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議【高知】

日時：2012年2月5日（日）
場所：高知大学朝倉キャンパス　共通教育棟2号館212番教室
担当企画員：江口寧子
演題：『成人当事者の支援を考える～当事者の視点から～』
　　講師　広野 ゆい　氏（NPO法人発達障害をもつ大人の会（DDAC）代表）
シンポジスト：広野 ゆい　氏
　　　　　　　江口 寧子

参加者数：112名

【開催地担当者感想】

高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議［高知］
～成人当事者の支援を考える～

午前中の情報交換会では、知的障害を伴わない場合、支援者が当事者の言動を「わがまま」と捉え、当事者と支援者の仲介を担当する者であっても、性格上の問題なのか、障害特性と捉えるべきか悩ましいケースがあるという報告が出ました。仕事として専門に携わっている人たちの日々の苦労を察すると同時に、できることとできないことの差が大きい発達障害者への更なる理解と質の高い支援の必要性を感じました。

午後の講演では、広野ゆい氏から成人当事者の支援についての考えを当事者の視点から率直な言葉でお話いただきました。広野氏は成人後の診断であり、これまでを振り返ると「怒られ損な気持ちが大きい」そうで、早期に診断され、継続して適切な支援を受けることの重要性を改めて感じました。

多様性が認められる社会の実現に向けて、当事者が発信・情報共有できるこのような会議が、今後も定期的に開催されることを願います。

【参加者アンケート】

○ご意見・ご感想などを自由にお書きください。

・わかりやすくて、笑いのたえない会議でした。今回のような当事者の方からのお話はいつ聞いても勉強になります。次もぜひ行なって下さい。

・とてもわかりやすく、納得する事が多々ありました。また、早期療育の大切さの実感し、いずれ社会に出る子供の為に社会的スキルを身につけさせてあげたいと感じました。今日はありがとうございました。

・広野ゆいさんのお話は、とても具体的で参考になりました。仕事をしている成人当事者のお話は、なるほどと思う事が多く、気持ちを新たに「頑張ろう」というエネルギーをもらえました。ありがとうございます。

・講演は、とても興味深く、ひきつけられてきき入った。広野ゆい氏と江口寧子氏のお話は大変おもしろく、笑いながら、希望が持て、元気にしてもらった。

・当事者の方のお話は大変参考になりました。前向きに生きていく大切さ、保護者にも伝えていきたいと思います。

・とても有意義な講演でした。私の息子は重度の自閉症ですが言葉がないだけで、全く同じだと思いました。表出がないだけで、わかるように丁寧に教えてあげる必要は同じですね。私は、この自閉症スペクトラムにとても魅力と面白さを感じています。もっともっと彼らの良さを知ってもらえる講演が増えればいいなと思いました。その点でも広野さんのお話はとても良かったです。

・高知でも、大人向けのセミナー、講座、セルフヘルプグループ、何か取り組んで欲しいです。できる事は自分も参加します。

・当事者の話や想いなどもっと知りたいです。

○今後のネットワーク会議でどのようなことをしてほしいですか。

・当事者の話。就労について。思春期の過ごし方。二次障害について。

3-8
高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議【長崎】

日時：2012年2月19日（日）
場所：長崎市障害福祉センター（もりまちハートセンター）　4階研修室
担当企画員：江口寧子・岡田稔久
演題：『当事者の視点から』
　　　講師　L　氏
シンポジスト：L　氏
　　　　　　　岩永　竜一郎　氏（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻 理学・作業療法学講座 作業療法学分野 准教授）
　　　　　　　江口　寧子・岡田　稔久
参加者数：40名

【開催地担当者感想】

高機能自閉症＆アスペルガー症候群ネットワーク会議を終えて

長崎県自閉症協会
会長　金城　靖彦

２月１９日（日）に表記会議当地・長崎について開催されました。午前中は福岡・佐賀・長崎・鹿児島の各県の方がそれぞれの現状を話し合いましたが、長崎県の場合、高機能自閉症＆アスペルガー症候群の当事者や家族に対する支援がまだ遅れているなと痛感させられました。今後は他県の手法をよく研究して、本県の支援方法の確立を目指したいと感じました。

午後は「成人当事者の視点から」というテーマで、L 氏のお話を聞くことが出来ました。

Ｌ氏が持つ感覚過敏の苦しさ、幼少期のいじめからくる二次障害、社会で生活の糧を得るために、「仮面」を被り、無意気の演技を続けて生活してきたことなどのお話を伺い、当事者の支援ニーズをしっかりと受け止め、しっかり支えて参りたいと気持ちを新たにしました。

【参加者アンケート】

○ご意見・ご感想などを自由にお書きください。

・このような素晴らしい話をより多くの人達に聞いてほしいと思いました（支援者・当事者だけでなく）。本当にためになるシンポジウムとＬ氏さんのお話でした。ありがとうございました。支援者としてできることをやっていきたいと思います。今後も、学びの姿勢を忘れずにいこうと思います。

・初めて参加させて頂きました。今まで自分の子どもに関係する研修・学習会ばかりでしたが、自分の事だけでなく全体的な現在の傾向や問題点など、知ることができ、考えさせられる良い機会になりました。また、多くの先生方、支援センターの方、協会の方に、支えられているのだと、改めて心強く思いました。自分としては、公的には、長崎は遅れている感じがしますが（当事者・保護者と行政側のシステムにズレがある感じがする）、親の会や支援センターの方々のがんばりで何とか支えてもらっていると思います。

○今後のネットワーク会議でどのようなことをしてほしいですか。

・今回のように質問に対して、シンポジストの方々がていねいに答えて下さる形はとてもいいなと思ったので、また、このような形での機会を作って頂けたらありがたいです。

・発達障害に関する基本的な勉強会、対応方法など。また、具体的なサポート支援について（利用方法や支援内容など）もっと知りたいと思います。できれば、医療従事者を対象にした、勉強会・講演会などがあったらと思います。

・本人が参加出来る余暇活動の紹介やグループ活動の実例を紹介してほしい。

・高機能やアスペルガーについては、またぜひ取り上げて頂きたいです。社会の中で表面的にわかりにくいことが多いと思うので。

・当事者の方、保護者方からの声を聞くことで、支援を行っていく上で視野が広がると思うので、本日のようなスタイルの形式はすごく勉強になりました。今後もこの様な機会があれば幸いです。

第４章
全体総括会議

4-1
全体総括会議 企画意図について

NPO 法人東京都自閉症協会 理事・企画委員 尾崎ミオ

アスペルガー症候群などの成人期の支援が課題とされる中、現在、東京においては、成人当事者自らが立ち上げたピアサポートの活動が盛んになっています。居場所を提供するところ、独自のワークショップを開催するところ、地域に根ざした活動を行うところ、就労支援に主眼を置くところなど、その内容はさまざまです。また運営も、支援者と協働するところもあれば、成人当事者だけで運営を担うところもあり、多様な形態があります。

今年度の事業をはじめた当初は、このようなピアサポートの会を、地方の自閉症協会の中にもつくっていくことを目的にしていました。しかし、事業を進め、委託先において、いくつかの地方の状況を知るにつれ、下記のような課題が明らかになりました。

・中途診断で２次障害の特徴が顕著な成人アスペルガー症候群の支援はリスクが高い。

オープンな会を運営すれば、自閉症圏ではない人、２次障害が重い人なども活動に参加してくる可能性があり、親がスタッフの大半をつとめる団体では、対応が難しい。オープンな成人当事者支援の会を、地方の自閉症協会で運営していくのはリスクマネジメントが課題。

・成人当事者の支援活動は必要。

しかし、だからといって成人期の支援が必要ないわけではない。今後は、早期に診断を受け自閉症協会の活動に参加してきた子どもたちが成長していった際の受け皿が必要となる。とくに、就労や成人以降の課題でつまづいたときに、戻れる場所・居場所は必要。

・中途診断の当事者と、早期発見タイプの当事者ではニーズが違う。

中途診断の当事者は、「同じ障害の人に会いたい」という要求もあり、ピアサポート

を求める傾向があるが、早期発見タイプは、むしろ同じ障害の人と療育などを通じ、一緒に育ってきているので、 思春期以降は、じょじょに当事者活動から、卒業していく傾向もみられる。早期発見タイプにマッチした、成人支援の仕組みを検討する必要がある。

もちろん、中途診断の成人当事者支援も重要ですが、自閉症協会の高機能事業としては、今の地方団体が取り組みやすく、しかも喫緊の課題となっている、早期発見タイプが成人になったときの支援体制を、応援していくのが優先課題ではないかと考えました。しかし、まだ成人当事者を対象にした活動を行っている自閉症協会は、全国でも数少なく、どんな活動が行われているのかという情報も共有できていない状態です。

そこで、今回の全体総括会議では、まず、早期発見タイプの当事者たちにとって、どのようなサポート活動が望ましいのか探っていくために、みなでテーブルを囲んで、情報交換を行う企画としました。地方団体から、いずれ成人当事者団体を担っていく若きルーキーたちを招き、ピアサポート活動を行う成人当事者の先輩たちとの交流の場を設けました。自ら仲間をつくり、積極的に活動する成人当事者先輩の姿から、ルーキーたちに何かを感じとってほしいとの願いをこめた企画です。小さな種まきにすぎませんが、ささやかな芽が育てば、とても嬉しく思います。

4-2
当事者と関係者による活動報告・意見交換・情報交換会　について

東京都発達障害者支援センター「TOSCA」・企画委員　柏木理江

2012年3月4日に、成人発達障害当事者団体の支援推進事業（以下、本事業）の総まとめの会である「全体総括会議」が行われましたので、以下のとおりご報告いたします。

▼1．本会合の趣旨

・本事業の１年間のまとめとして、事業報告、助成団体の活動報告を行う。
・今年度のテーマであった成人期の支援について意識の共有を図ることを目的に、成人当事者会について参加者と成人当事者会を運営している方や関係者で、活動報告や意見交換、情報交換会を行う。

▼2．参加者（計34名）

・萩原拓先生（北海道教育大学旭川校）…コメンテーター
・委託事業受託団体（山口県自閉症協会、高知県自閉症協会、富山県自閉症協会）
・成人当事者会を運営する当事者代表
・当事業の委員
・その他、成人当事者会の運営に興味がある方、活動を始めようとしている人方

▼2．進行

11:00 ～　集合　事前打ち合わせ
12:45 ～　準備、開場
13:00 ～　開会のあいさつ
13:05 ～　委託事業活動 報告
13:45 ～　成人当事者団体による交流会（司会：尾崎）
■趣旨説明（柏木）

■団体ごとに自己紹介と活動概要の説明（各団体５分程度）

①　東京都成人発達障害当事者会 イイトコサガシ

②　アスペルガー症候群・高機能自閉症の女性の会 カモミール

③　オルタナティブ・スペース・Necco

④　発達障害を一緒に語る会

⑤　三鷹発達障害ピアサポート プレイス

⑥　東京都自閉症協会

⑦　山口県自閉症協会

⑧　富山県自閉症協会

⑨　佐賀県自閉症協会

■萩原先生、柏木よりコメント

■他の参加団体からの質問等

■フロアを交えた情報交換と意見交換会

16:00　　終了

▼所感

今年度のテーマは、成人期の方たちが活動する場を作るということで、助成を受けて活動してくださった団体の皆様は、このなかなか一筋縄ではいかない課題について、苦労しながら取り組んでくださいました。どうもありがとうございました。

この事業を通して様々な地域の様子を知るにつけ、学校や療育機関のように年齢で区切られてしまのではなく、必要な時に行けて、支えてもらえる、支え合える、無期限で使える場所である「当事者会」があることの重要性です。

現在成人期にある当事者には、子どものころに診断を受け、何らかのフォローを受けてきた「早期発見組」と、大人になってから診断を受けた「中途診断組」がいます。今年度事業を行なってみて、中途診断組と早期発見組の当事者ではニーズが違うこともわかりましたが、当事者会を求める声はどこに行っても必ずありました。またすでに活動している方の話を聞くと、このような会があることによるメリットは、早期発見組・中途診断組両方の当事者と親御さんたちに、少なからずあるのだと実感できました。

成人当事者活動を展開するには、どんなにきっちりと出来あがった運営マニュアルがあったとしても、一律には行かないのも事実です。それぞれの土地ごとに、または運営にかかわ

る人たちの個性や事情によって、形を変えていく必要性については、当初この事業に取り掛かる前に想定していたよりも、かなり大きな要素を占めていると感じました。しかし今回の全体総括会議で、助成団体や当事者会での取り組みについて聞いてみて、運営や活動に関わろうとしている人たちが、その人たちで出来ること、その地域特性にマッチした形を模索していくことの繰り返しが、結果的に活動を地に足のついたものにしていくのではないかと思いました。また発達障害にこだわりすぎず、色々な近接する団体とのコラボレーションによって、当事者活動の奥行きが深まっていくことの可能性についても感じることが出来ました。

資料編

全国発達障害者支援センター一覧

発達障害者支援センター一覧

平成23年5月現在

都道府県	センター名	電話番号
北海道	北海道発達障害者支援センター「あおいそら」	0138-46-0851
	北海道発達障害者支援道東地域センター「きら星」	0155-38-8751
	北海道発達障害者支援道北地域センター「きたのまち」	0166-38-1001
	札幌市自閉症・発達障がい支援センター「おがる」	011-790-1616
青森県	青森県発達障害者支援センター「ステップ」	017-777-8201
岩手県	岩手県発達障がい者支援センター「ウィズ」	019-601-2115
宮城県	宮城県発達障害者支援センター「えくぼ」	022-376-5306
	仙台市発達相談支援センター「アーチル」	022-375-0110
	仙台市南部発達相談支援センター「南部アーチル」	022-247-3801
秋田県	秋田県発達障害者支援センター「ふきのとう秋田」	018-826-8030
山形県	山形県発達障がい者支援センター	023-673-3314
福島県	福島県発達障がい者支援センター	024-951-0352
茨城県	茨城県発達障害者支援センター	029-219-1222
栃木県	栃木県発達障害者支援センター「ふぉーゆう」	028-623-6111
群馬県	群馬県発達障害者支援センター	027-254-5380
埼玉県	埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」	049-239-3553
	さいたま市発達障害者支援センター	048-859-7422
千葉県	千葉県発達障害者支援センター「CAS（きゃす）」	043-227-8557
	千葉市発達障害者支援センター	043-303-6088
東京都	東京都発達障害者支援センター「TOSCA（トスカ）」	03-3426-2318

都道府県	センター名	電話番号
神奈川県	神奈川県発達障害支援センター 「かながわＡ（エース）」	0465-81-3717
	横浜市発達障害者支援センター	045-290-8448
	川崎市発達相談支援センター	044-223-3304
山梨県	山梨県福祉保健部こころの発達総合支援センター	055-254-8631
長野県	長野県発達障害者支援センター	026-227-1810
岐阜県	岐阜県発達支援センター 「のぞみ」	058-233-5116
	伊自良苑発達障害者支援センター	0581-36-2175
静岡県	静岡県発達障害者支援センター （診療所あいら）	054-286-9038
	静岡市発達障害者支援センター 「きらり」	054-285-1124
	浜松市発達相談支援センター 「ルピロ」	053-459-2721
愛知県	あいち発達障害者支援センター	0568-88-0811 （内2222）
	名古屋市発達障害者支援センター 「りんくす名古屋」	052-757-6140
三重県	三重県自閉症・発達障害支援センター 「あさけ」	059-394-3412
	三重県自閉症・発達障害支援センター 「れんげ」	0598-86-3911
新潟県	新潟県発達障がい者支援センター 「ＲＩＳＥ（ライズ）」	025-266-7033
	新潟市発達障がい支援センター 「JOIN（ジョイン）」	025-234-5340
富山県	富山県・自閉症発達障害支援センター 「あおぞら」	076-438-8415
	富山県発達障害者支援センター 「ありそ」	076-436-7255
石川県	石川県発達障害支援センター	076-238-5557
	発達障害者支援センター 「パース」	076-257-5551

都道府県	センター名	電話番号
福井県	福井県発達障害児者支援センター 「スクラム福井」	0770-21-2346
	福井県発達障害児者支援センター 「スクラム福井」　福井	0776-22-0370
	福井県発達障害児者支援センター 「スクラム福井」　奥越（大野）	0779-66-1133
滋賀県	滋賀県発達障害者支援センター 「いぶき」	0749-52-3974
京都府	京都府発達障害者支援センター 「はばたき」	0774-68-0645
	京都市発達障害者支援センター 「かがやき」	075-241-0906
大阪府	大阪府発達障がい者支援センター 「アクトおおさか」	06-6100-3003
	大阪市発達障害者支援センター 「エルムおおさか」	06-6797-6931
	堺市発達障害者支援センター	072-276-7011
兵庫県	ひょうご発達障害者支援センター 「クローバー」	0792-54-3601
	加西ブランチ	0790-48-4561
	芦屋ブランチ	0797-22-5025
	豊岡ブランチ	0796-37-8006
	宝塚ブランチ	0797-71-4300
	上郡ブランチ	0791-56-6380
	神戸市こども家庭センター発達障害ネットワーク推進室	078-382-2760
奈良県	奈良県発達障害支援センター 「でぃあ～」	0742-62-7746
和歌山県	和歌山県発達障害者支援センター「ポラリス」	073-413-3200
鳥取県	『エール』 鳥取県発達障がい者支援センター	0858-22-7208
島根県	島根県東部発達障害者支援センター 「ウィッシュ」	050-3387-8699
	島根県西部発達障害者支援センター 「ウィンド」	0855-28-0208
岡山県	おかやま発達障害者支援センター	086-275-9277
	岡山市発達障害者支援センター	086-236-0051

都道府県	センター名	電話番号
岡山県	おかやま発達障害者支援センター　県北支所	0868-22-1717
広島県	広島県発達障害者支援センター	082-497-0131
	広島市発達障害者支援センター	082-568-7328
山口県	山口県発達障害者支援センター「まっぷ」	083-929-5012
徳島県	徳島県発達障害者支援センター	088-642-4000
香川県	香川県発達障害者支援センター「アルプスかがわ」	087-866-6001
愛媛県	愛媛県発達障害者支援センター「あい・ゆう」	089-955-5532
高知県	高知県立療育福祉センター発達支援部	088-844-1247
福岡県	福岡県発達障害者支援センター「ゆう・もあ」	0947-46-9505
	福岡県発達障害者支援センター「あおぞら」	0942-52-3455
	北九州市発達障害者支援センター「つばさ」	093-922-5523
	福岡市発達障がい者支援センター「ゆうゆうセンター」	092-845-0040
佐賀県	佐賀県発達障害者支援センター「結」	0942-81-5728
長崎県	長崎県発達障害者支援センター「しおさい(潮彩)」	0957-22-1802
熊本県	熊本県発達障害者支援センター「わっふる」	096-293-8189
大分県	大分県発達障がい者支援センター「イコール」	097-586-8080
宮崎県	宮崎県中央発達障害者支援センター	0985-85-7660
	宮崎県延岡発達障害者支援センター	0982-23-8560
	宮崎県都城発達障害者支援センター	0986-22-2633
鹿児島県	鹿児島県発達障害者支援センター	099-264-3720
沖縄県	沖縄県発達障害者支援センター「がじゅま～る」	098-982-2113

独立行政法人福祉医療機構助成事業
成人発達障害当事者団体の支援推進事業

【企画運営委員】

柏木理江（東京都発達障害者支援センター「TOSCA」）
江口寧子（日本自閉症協会 理事・佐賀県自閉症協会）
新保文彦（日本自閉症協会 副会長・長野県自閉症協会）
岡田稔久（日本自閉症協会 理事・熊本県自閉症協会）
尾崎ミオ（NPO 法人 東京都自閉症協会 理事）

2012 年 3 月 31 日発行

社団法人　日本自閉症協会

〒104-0044 東京都中央区明石町 6-22　築地 622

TEL03-3545-3380　FAX03-3545-3381

E-mail　asj@autism.or.jp　URL　http://www.autism.or.jp/

REPORT
2011

Autism Society Japan

この報告書は、独立行政法人福祉医療機構の助成金によって作成したものです。